

1. 略歴

- 1994年3月 東京大学文学部西洋史学専修課程 卒業
1994年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程西洋史学専攻 入学
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程西洋史学専攻 修了
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程西洋史学専攻 進学
1998年10月～2000年9月 ロシア連邦ロシア科学アカデミー・ロシア史研究所留学（文部省アジア諸国等派遣留学生）
2003年3月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程西洋史学専攻 単位取得退学
2005年10月 博士（文学）学位取得
2006年9月 新潟国際情報大学情報文化学部情報文化学科 専任講師
2010年4月 東京理科大学理学部第一部教養学科 准教授
2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

近現代ロシア史

b 研究課題

ヨーロッパの周縁としてのロシアから、20世紀史を捉え直すこと。

c 主要業績

(1) 著書

- 共著、塩川伸明・小松久男・沼野充義編、『記憶とユートピア（ユーラシア世界3）』、東京大学出版会、2012.6
共著、ロシア史研究会編、『ロシア史研究案内』、彩流社、2012.9
共著、中嶋毅編、『新史料で読むロシア史』、山川出版社、2013.4
その他、池田嘉郎ほか、『世界史教授資料研究篇』、山川出版社、2013.4
編著、池田嘉郎、『第一次世界大戦と帝国の遺産』、山川出版社、2014.3

(2) 論文

- 池田嘉郎、「帝国、国民国家、そして共和制の帝国」、『クェドランテ』、14、81-99頁、2012.3
池田嘉郎、「第一次大戦期ロシア帝国の衛生独裁—衛生・後送部門最高指揮官府の人員と構造」、『東京理科大学紀要（教養篇）』、44、245-263頁、2012.3
池田嘉郎、「記憶の中のロシア革命—ロンム『十月のレーニン』とスターリン時代の革命映画」、塩川伸明・小松久男・沼野充義編『記憶とユートピア（ユーラシア世界3）』、東京大学出版会、101-126頁、2012.6
池田嘉郎、「第一次世界大戦、ロシア革命、ネップ」、ロシア史研究会編『ロシア史研究案内』、彩流社、113-124頁、2012.10
池田嘉郎、「ソヴィエト帝国論の新しい地平」、『世界史の研究』、234、1-12頁、2013.2
池田嘉郎、「ロシア史研究の中の戦後歴史学—和田春樹と田中陽児の仕事を中心に」、『史潮』、73、39-59頁、2013.7
池田嘉郎、「『社会運動史』覚書き」、『史苑』、74-1、59-72頁、2014.1
池田嘉郎、「幸福なモスクワ」、『東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』、27、17-26頁、2014.3

(3) 書評

- Michael A. Reynolds、『Shattering Empires: The Clash and Collapse of the Ottoman and Russian Empires, 1908-1918』、Cambridge University Press、『ロシア史研究』、90、146頁、2012.6
土屋好古、『『帝国』の黄昏、未完の「国民」—日露戦争・第一次革命とロシアの社会』、成文社、『図書新聞』、3102、2頁、2013.3
Eric Lohr、『Russian Citizenship: From Empire to Soviet Union』、Harvard University Press、『ロシア史研究』、93、94頁、2013.11
高田和夫、『ロシア帝国論—19世紀ロシアの国家・民族・歴史』、平凡社、『19世紀学研究』、8、121-127頁、2014.3

(4) 学会発表

国際、Yoshiro Ikeda, 「‘Toward an empire of republics’: transformation of Russia in the age of total war, revolution, and nationalism」、The 6th International Symposium of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia、北海道大学スラブ研究センター、2012.1.20

国内、池田嘉郎、「革命期ロシアにおけるリーダーシップ—構想・制度・人物」、ロシア・東欧学会、ロシア史研究会、JSSEES、日本ロシア文学会 2012 年合同大会、同志社大学、2012.10.7

国内、池田嘉郎、「ソヴィエト帝国論の新しい地平—1920 年代～30 年代のソ連民族政策」、基盤研究 (B)「1920 年代から 1930 年代中国周縁エスニシティの民族覚醒と教育に関する比較研究」研究会、東京理科大学、2012.12.1

国内、池田嘉郎、「戦後歴史学の中のロシア史研究」、歴史学会第 37 回大会、成蹊大学、2012.12.2

国際、Yoshiro Ikeda, “Putting Together an Imperial Jigsaw Puzzle: How the Russian Empire Was Envisaged in the Health Resort Boom during the First World War”, The 5th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (ICCEES Asian Congress)、大阪経済法科大学、2013.8.10

国内、池田嘉郎、合評会「帝国主義と社会主義の時代」、帝国主義と社会主義の時代、世界史研究所 (東京都渋谷区)、2013.12.22

国際、Yoshiro Ikeda, 「Autonomous Regions in the Eurasian Borderlands as a Legacy of the First World War」、An International Workshop “Rethinking the First World War and Europe on its Centenary、The University of Tokyo, Komaba Campus、2014.1.10

(5) 研究報告書

宇山智彦、『比較帝国論の世界—新学術領域研究第 4 班中間成果』(平成 20-24 年度科学研究費補助金 研究成果報告書 研究代表者 宇山智彦)、210-213 頁、2012.1

(6) 会議主催(チェア他)

国際、「The 5th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (ICCEES Asian Congress)」、チェア、Repression and the Fate of Soviet Intelligentsia、大阪経済法科大学、2013.8.10～2013.8.10

(7) マスコミ

「第 1 次大戦 日本の転機：勃発 100 年 位置付け再考」、『日本経済新聞』44 面、2014.1.18

(8) 教科書

『世界の歴史—世界史 A』、近藤和彦、羽田正、石橋崇雄、大津留厚、高山博、中野隆生、村上衛、森本一夫、池田嘉郎、小豆畑和之、執筆、山川出版社、2013

(9) 翻訳

個人訳、И.В.Лукоянов、「Замечание на доклад гос. Вада и ответ на замечание гос. Каго」、池田嘉郎、『和田氏の報告に対するコメント、加藤氏のコメントに対する回答』、『20 世紀初頭におけるロシアの対外認識—アメリカ観および日露戦争』(早稲田大学ロシア研究所 国際シンポジウム報告集)、169-172 頁、早稲田大学ロシア研究所、2012.3